

和歌山下津港長期構想とは

和歌山下津港港湾計画
(平成9年11月 改訂、平成11年7月・令和2年1月 一部変更)

■目標年次：平成20年代前半

| | | |
|---------------|----------------|------------------------|
| 目標年次 取扱貨物量 | 外貨 | 2,990万トン |
| | 内貨 (うちフェリー) | 2,880万トン (うち550万トン) |
| | 合計 | 5,870万トン |
| 入港最大標準船型 | | 26万D/W級 |
| 港湾 利用者数 | 旅客施設利用者 | 80万人 |
| | マリーナ利用者 | 240万人 |

■計画の方針

- 1) 外内貨機能の強化
- 2) 親水空間の充実、四国方面の玄関口及びクルージングの拠点
- 3) 廃棄物受入空間の確保
- 4) 電源立地の要請への対応
- 5) 漁船等の適切な収容
- 6) 臨港交通体系の充実
- 7) 大規模地震災害時の対策の推進

■社会情勢などの変化

- **和歌山下津港を取り巻く物流環境の変化**
 - ・国際フィーダー航路の開設
 - ・トラックドライバーの不足
 - ・高速道路の延伸（京奈和自動車道、阪和自動車道）
 - ・和歌山南スマートICの開通
- **背後地域における変化**
 - ・南海電鉄 和歌山港線の一部廃線（和歌山港駅～水軒駅間）
 - ・立地企業への入れ替わり
- **港湾利用ニーズの変化**
 - ・船型の大型化
 - ・クルーズ需要の増加
- **巨大災害の切迫とインフラの老朽化**
 - ・南海トラフ巨大地震の危険性、大型台風による被災
 - ・建設後50年を経過する施設の増加
- **環境配慮型社会の形成**
 - ・カーボンニュートラルポート（CNP）の推進
 - ・SDGs（持続可能な開発目標）の取組み

改訂から
20年以上
経過

和歌山下津港の概ね20～30年の将来像や、それを実現するための施策の方向性を「和歌山下津港長期構想」として策定する

和歌山下津港の将来像・和歌山下津港長期構想の基本戦略

和歌山下津港の将来像

近畿経済圏のサウスゲートウェイ「和歌山下津港」
太平洋への近さを活かして、近畿圏と首都圏や東アジア等を結ぶ
サプライチェーンの強靱化に寄与

産業・物流
地域の産業・物流を牽引し、近畿圏のサプライチェーン強靱化に資する
和歌山下津港

交流・観光
インバウンド・国内観光と地域の交流の場としての
和歌山下津港

安全・安心
安全・安心な暮らしや企業活動を維持し、国土強靱化を支える
和歌山下津港

和歌山下津港で解決すべき課題に対する将来像実現に向けて、物流面、交流面、安全面それぞれにおいて、以下の**目指すべき姿・方向**、**基本戦略**を設定する。

| | 産業・物流 | 交流・観光 | 安全・安心 |
|-----------|---|---|---|
| 将来像 | 地域の産業・物流を牽引し、近畿圏のサプライチェーン強靱化に資する和歌山下津港 | インバウンド・国内観光と地域の交流の場としての和歌山下津港 | 安全・安心な暮らしや企業活動を維持し、国土強靱化を支える和歌山下津港 |
| 目指すべき姿・方向 | 和歌山下津港を活用したモデルシフトにより近畿圏企業のサプライチェーンの強靱化に貢献するとともに、未利用地の活用や埋立てによる物流機能再編により港湾の競争力強化を図る | クルーズ客船受入強化とともに、地域観光資源や自然環境と連携し、そこで交流する人に対する魅力を向上するとともに、地域の活性化を図る | 港湾利用者・住民の安全・安心を確保するとともに、地域のBCPに幅広く貢献する |
| 基本戦略 | 基本戦略① 首都圏向けRORO船航路を始めとする太平洋への近さを活かした和歌山下津港経由の海上輸送を提案 基本戦略② 未利用地の利用見直しや埋立ても含めた物流機能の再編による企業立地環境の向上 | 基本戦略③ クルーズ船の受入体制強化と地域住民・国内観光客・インバウンド観光客が交流できる空間及び活力や癒しを感じられる空間の創出 | 基本戦略④ 耐震強化岸壁等の整備による大規模災害への備えと、老朽化施設等の再編・整理及び適正管理の推進 |
| | 基本戦略⑤ 港湾のデジタル化への積極的対応 基本戦略⑥ 港湾・物流活動のグリーン化推進等によるカーボンニュートラルの実現 | | |

和歌山下津港 長期構想 (概要版)

短期・中期・長期で取り組む施策：
継続して取り組む施策：

基本戦略① 首都圏向けRORO船航路を始めとする太平洋への近さを活かした和歌山下津港経由の海上輸送を提案



①-1：道路ネットワークの整備による背後圏の拡大を活かした外航コンテナ航路、国際フィーダー航路の拡大・増便による和歌山下津港からの定期コンテナ輸送の拡大

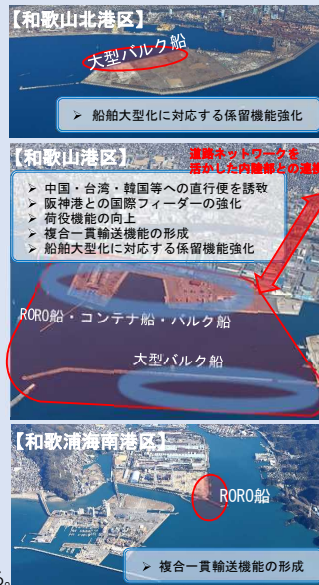
- 【和歌山港区】
- 利用企業のアジア圏への輸送ニーズに対応するため、中国・台湾・韓国等への直行便航路の誘致を図り、県産の農産品の輸出促進や企業の競争力向上を目指す。
 - 阪神港との国際フィーダーの強化により、コンテナ輸送網の充実を図る。
 - 道路網の整備によって広がった和歌山県全域、大阪府南部、奈良県西部の集荷、貨物を効率的に取り扱うためのコンテナ埠頭の荷役機能の向上に継続的に取り組む。

①-2：立地優位性を活かしたRORO船航路の誘致、RORO船岸壁の確保によるモーダルシフトの推進

- 【和歌山港区】
- 大阪湾の入口という立地を活かし、RORO船航路の誘致を図る。
 - 道路ネットワークの活用とRORO船岸壁の整備により、和歌山市内に立地する企業の複合一貫輸送を実現することにより、ドライバー不足及びCO₂排出量削減に対応する。
- 【和歌浦海南港区】
- 大阪湾の入口という立地を活かし、RORO船航路の誘致を図る。
 - 道路ネットワークの活用とRORO船岸壁の整備により、和歌山県全域、大阪府南部、奈良県西部等に立地する企業から首都圏向け貨物の集荷、利用向上を図る。

①-3：船舶大型化への対応による物流コスト削減への寄与

- 【和歌山北港区・和歌山港区】
- 既存防舷材の機能向上による大型船への対応。
 - 喫水調整を解消するため、船舶大型化に対応するための大水深岸壁の整備を図る。
 - 和歌山港区では、和歌山港沖地区の埋立て等による岸壁の再編の中で、大水深岸壁を確保する。



| 基本戦略 | 対応港区 | 施策の内容 | スケジュール | | |
|------|---------|--|---------|---------|---------|
| | | | 短期(10年) | 中期(20年) | 長期(30年) |
| ①-1 | 和歌山港区 | 定期コンテナ輸送の拡大(直行便航路の誘致、国際フィーダーの強化) コンテナ埠頭の荷役機能の向上 | → | → | → |
| ①-2 | 和歌山港区 | RORO船航路の誘致 RORO船対応岸壁の整備(主に和歌山市内に立地する企業の利用を想定) | → | → | → |
| | 和歌浦海南港区 | RORO船航路の誘致 RORO船対応岸壁の整備(主に高速道路ネットワークを活用して広域に立地する企業の利用を想定) | → | → | → |
| ①-3 | 和歌山北港区 | 船舶大型化に対応する係留機能強化(既存施設の増築) | → | → | → |
| | 和歌山港区 | 船舶大型化に対応する係留機能強化(既存防舷材の機能向上) バルク貨物の集荷・再編と国際物流ターミナル(岸壁、埠頭用地等)の整備 | → | → | → |

基本戦略② 未利用地の利用見直しや埋立ても含めた物流機能の再編による企業立地環境の向上



②-1：港内の用地確保による物流拠点創出や、高速道路ICへのアクセス改善などの道路ネットワークを活かした内陸部との連携による港湾の活性化

- 【和歌山北港区】
- 未利用地への企業立地を促進するため、既存の土地利用の見直しを図る。
 - 埠頭へのアクセス道路の整備により、利用しやすい埠頭用地、企業用地を目指す。
- 【和歌山港区】
- 埠頭間の埋立て、和歌山港沖地区の埋立てにより新たな用地を創出し、より利便性の高い埠頭用地を目指す。
 - 貨物利用の再編を図り、コンテナヤード、野積場、倉庫用地等を確保する。



| 基本戦略 | 対応港区 | 施策の内容 | スケジュール | | |
|------|--------|-------------------------------|---------|---------|---------|
| | | | 短期(10年) | 中期(20年) | 長期(30年) |
| ②-1 | 和歌山北港区 | 未利用地の利用(既存土地利用の見直し、アクセス道路の整備) | → | → | → |
| | 和歌山港区 | 埋立てによる用地造成(埠頭間、和歌山港沖地区) | → | → | → |

基本戦略③ クルーズ船の受入体制強化と地域住民・国内観光客・インバウンド観光客が交流できる空間及び活力や癒しを感じられる空間の創出



③-1：クルーズ船誘致の推進と寄港時の輻輳解消のための施設の整備

- 【和歌山港区】
- 大型クルーズ船の受入体制の強化を図り、埠頭間埋立てにより創出される用地を活用して、クルーズ船寄港時の貨物と旅客・見学者の分離を図る。
- 【和歌浦海南港区】
- 新たに計画するRORO船岸壁等において、利用調整を行いながら小型クルーズ船の受入れを図る。
- 【港全体】
- 和歌山港区、和歌浦海南港区それぞれの特徴を活かした誘致方を検討し、大型クルーズ船及び小型クルーズ船の寄港の定着化を目指す。

③-3：多種多様な観光資源等を活用し、訪問客が活力や癒しを感じられる空間の創出

- 【港全体】
- 港エリア全体に点在する多種多様な資源*を活用し、地域住民や国内外からの観光客など港を訪れる人々が活力や癒しを感じられる空間として、港のブランド価値の向上を目指す。
- *和歌山下津港に
 点在する施設 ○風光明媚な和歌浦湾などの景勝地 ○海浜地などの豊かな自然
 ○紀州東照宮をはじめとする歴史に裏打ちされた文化的資源
 ○農水産品などの地域の魅力に触れ合える施設
 ○マリナやサイクリングロードなどのアクティビティ関連施設
- 背後の観光資源、さまざまな関係機関との連携を図り、観光の玄関口を目指す。

【港全体】
 ▶特徴を活かした誘致によるクルーズ船寄港の定着化
 ▶港のブランド価値の向上
 ▶観光の玄関口として寄与



③-2：マリナシティや港湾を核とした観光拠点の形成による観光産業への貢献

- 【和歌浦海南港区】
- マリナシティと隣接する海浜と連携したリゾート空間の創出を図る。
 - マリナシティの特性を活かし、大型のプレジャーボートの寄港地の形成を図る。
- 【和歌山港区、関西国際空港との旅客輸送の海上ネットワークの形成により、多様なアクセス手段の一翼を担う。

| 基本戦略 | 対応港区 | 施策の内容 | スケジュール | | |
|------|---------|---|---------|---------|---------|
| | | | 短期(10年) | 中期(20年) | 長期(30年) |
| ③-1 | 和歌山港区 | クルーズ船寄港時の貨物と旅客の動線分離(埠頭間の埋立て) | → | → | → |
| | 和歌浦海南港区 | 小型クルーズ船の受入れ(RORO船対応岸壁の整備) | → | → | → |
| ③-2 | 港全体 | クルーズ船寄港の定着化(特徴を活かした誘致) | → | → | → |
| | 和歌浦海南港区 | リゾート空間の形成(マリナシティと海浜との連携) 海上ネットワークの形成(大型のプレジャーボートの寄港地、旅客輸送) | → | → | → |
| ③-3 | 港全体 | 港のブランド価値の向上(地域住民・国内外からの観光客の活力や癒しの空間創出) 観光の玄関口として寄与 | → | → | → |

和歌山下津港 長期構想（概要版）

短期・中期・長期で取り組む施策：➡
継続して取り組む施策：➡➡

基本戦略④ 耐震強化岸壁等の整備による大規模災害への備えと、老朽化施設等の再編・整理及び適正管理の推進

④-1：大規模災害時の緊急物資輸送拠点や幹線貨物輸送拠点としての適切な耐震強化岸壁の整備と津波対策の推進

- 【港全体】
- 港湾関係者、港湾利用者と一体となった大規模防災訓練を実施するなど、実効性を確保した港湾BCPの充実を図る。
- 【和歌山北港区】
- 大水深の耐震強化岸壁への改良及びアクセス道路の整備を推進する。
- 【和歌山港区】
- 既設の耐震強化岸壁（水深12m、延長240m）による海上からの緊急物資輸送路と緊急物資補給基地との連携強化を図るとともに、フェリーの緊急輸送への活用を図る。
 - 埠頭間の埋立てでできるRORO船岸壁は幹線貨物対応の耐震強化岸壁としての整備を図る。
- 【和歌浦海南港区】
- 耐震強化岸壁及びアクセス道路の整備を推進する。また、新たに計画するRORO船岸壁を耐震強化岸壁とし、定期航路の維持と安定性の確保に寄与する。
 - 国と協力し、現在進めている津波対策の早期完成を目指す。

④-2：利用転換、再編を視野に入れた老朽化施設の補修・更新、廃止の推進による港湾活動の活性化

- 【和歌山港区】
- 現在の利用状況や将来の利用計画に応じた機能の集約や見直しにより、埠頭利用の再編による港湾活動の活性化を図る。

④-3：放置艇係留施設、作業船待機場所等の確保による秩序ある港湾空間の利用推進

- 【港全体】
- 現在進めている放置艇対策としての小型船舶係留施設整備、放置等禁止区域の設定等を継続して推進する。
 - 利用転換、再編の一環として、内港地区を中心とした作業船待機場所、港全体で休憩岸壁の確保を図る。

- 【港全体】
- 訓練を通じた実効性の担保による港湾BCPの充実
 - 放置艇対策の推進
 - 作業船待機場所・休憩岸壁の確保



| 基本戦略 | 対応港区 | 施策の内容 | スケジュール | | |
|------|---------|--|---------|---------|---------|
| | | | 短期(10年) | 中期(20年) | 長期(30年) |
| ④-1 | 港全体 | ・港湾BCPの充実 | ➡ | ➡ | ➡ |
| | 和歌山北港区 | ・耐震強化岸壁の改良（大水深）・アクセス道路の整備 | ➡ | ➡ | ➡ |
| | 和歌山港区 | ・耐震強化岸壁（既設）の活用（陸上・海上輸送と連携） ・耐震強化岸壁の整備（幹線貨物対応） | ➡ | ➡ | ➡ |
| ④-2 | 和歌山港区 | ・耐震強化岸壁・アクセス道路の整備（幹線貨物対応） ・進行中の津波対策を早期に完成 | ➡ | ➡ | ➡ |
| | 和歌浦海南港区 | ・埠頭利用の再編（機能の集約・見直し） | ➡ | ➡ | ➡ |
| ④-3 | 港全体 | ・放置艇対策の継続（小型船舶係留施設整備、放置等禁止区域の設定等） ・作業船待機場所、休憩岸壁の確保（内港地区等） | ➡ | ➡ | ➡ |

基本戦略⑤ 港湾のデジタル化への積極的対応

⑤-1：港湾DX等デジタル技術への対応

- 【港全体】
- AI、IoT等の情報通信技術を積極的に取り入れ、港湾DX物流の効率化・安定化を図る。
 - 港湾関連データ連携基盤を活用した効果的・効率的なアセットマネジメントを推進する。



| 基本戦略 | 対応港区 | 施策の内容 | スケジュール | | |
|------|------|--|---------|---------|---------|
| | | | 短期(10年) | 中期(20年) | 長期(30年) |
| ⑤-1 | 港全体 | ・港湾DXによる物流の効率化・安定化（AI、IoT等） ・効果的・効率的なアセットマネジメントの推進（港湾施設情報の電子化・一元管理） | ➡ | ➡ | ➡ |

基本戦略⑥ 港湾・物流活動のグリーン化推進などによるカーボンニュートラルの実現

⑥-1：カーボンニュートラルポート形成に向けた取組み

- 【港全体】
- 自然エネルギー、水素、アンモニア等の次世代エネルギーを活用する産業への積極的支援を行うとともに、陸電供給や港湾・物流活動の低炭素化、藻場の造成などのカーボンニュートラルポート形成に向けて、先進地港事例等を参考にしながら積極的な取組みを図っていく。
- 【和歌山北港区】
- 土地利用の見直しと合わせて、再生可能エネルギー、新エネルギー企業の立地を推進する。
- 【和歌山港区・和歌浦海南港区】
- 国際フィーダーコンテナ輸送強化、RORO船航路誘致によるモーダルシフトを推進する。



| 基本戦略 | 対応港区 | 施策の内容 | スケジュール | | |
|------|---------|--|---------|---------|---------|
| | | | 短期(10年) | 中期(20年) | 長期(30年) |
| ⑥-1 | 港全体 | ・カーボンニュートラルポートの形成 | ➡ | ➡ | ➡ |
| | 和歌山北港区 | ・再生可能エネルギー、新エネルギー企業の立地の推進（土地利用の見直し） | ➡ | ➡ | ➡ |
| | 和歌山港区 | ・モーダルシフトの推進（国際フィーダーコンテナ輸送強化、RORO船航路誘致） | ➡ | ➡ | ➡ |
| ⑥-1 | 和歌浦海南港区 | ・モーダルシフトの推進（RORO船航路誘致） | ➡ | ➡ | ➡ |

将来の空間利用ゾーニング

